資料４－２

西部地域における捕獲手法等の検討状況について

西部地域において、囲い罠による計画捕獲の実施を想定した捕獲手法等の検討を実施している。

川原地区に囲い罠１基（捕獲はできない構造としている）を設置してヤクシカの誘引試験を実施した。今後、囲い罠の規模、誘引時間、手法上の留意事項等について検討を行う。

（１）試験期間　平成 28 年 12 月 5～20 日（5～9 日は誘引のみ）
平成 29 年　1 月 10～25 日　計 30 日間

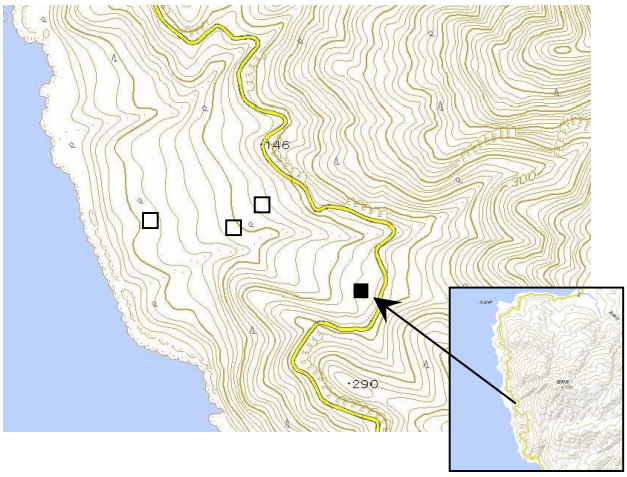
（２）試験場所　川原地区
※シカの目撃頻度、車道や植生保護柵との距離を考慮し、川原の緩斜面広尾根上を選定

（３）罠の規模等　囲い罠：１基(3m×3m）自動撮影カメラ：囲い罠の周囲に 10 基

（４）誘引エサ　囲い罠設置 4 日前からアルファルファペレット（2～5kg／回）を置いて誘引を行った。

（５）誘引状況

①概況　誘引開始２日目でエサ２kg を、４日目でエサ３kg を完食した。囲い罠設置後、１時間あまりで設置者の観察する前にもかかわらず、罠内にシカが進入して採餌を行い、次の日には設置前と同じエサ３kg を完食するなど、罠への警戒心の低さが明らかとなった。昼夜を問わずシカが囲い罠周辺に集まり、採餌する様子が撮影されている。

②最大頭数（速報値）　罠内：最大４頭　罠内外：最大 12 頭

③特記事項　日中も同様に出現することから、朝の見回り時の給餌では、捕獲を実施する予定である夜間までにエサが無くなる可能性がある。